

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 A棟		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105623-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105623-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川や緑に囲まれた自然環境の下、ゆったりとした利用者さんに合わせた生活をして頂き、四季折々の行事を取り入れ外出の機会をもうけ社会交流を心掛けている。苑のクリスマス会や、夏祭りにはボランティアの方もお招きし交流を図っている。また、地域住民に開かれた施設作りのため町内会に属し町内の会議や地域の清掃、行事に参加したり、回覧板などでお互いの情報を共有している。勉強会においても定期的に開催し、職員の質、向上に努め、よりよい介護サービスが提供できるように取り組んでいる。医療面では、母体施設が医療法人(整形外科)ということもあり、医療面でも充実し早期対応ができるよう体制もできている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は民家と田園に囲まれた環境の良い場所に在り、利用者は自由に散歩し、近所の方達と会話を楽しんでいる。事業開始から12年が経過し、様々な利用者の支援を行ってきたので、他の事業所ではなかなか引き受けてもらえない利用者も快く受け入れている。管理者は穏やかで、利用者の介護支援が重なり、困っている言動が見えるとさりげなく手助けをしてくれるので、職員も働きやすい。毎月業務日誌から抜粋した生活状況を報告しているため、家族も日頃の様子を知る機会となり喜ばれている。また遠方の家族の方は、当苑に訪問が出来ない為、3~4日のペースで苑に電話を入れ、両親と直接話されたり、スタッフからも様子を聞くことで安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と本年度の目標についてスタッフ間で共通認識の下、統一したケアが行えるよう努めている。また、定期的にカンファレンスを行い理念に添ったケアが出来ているか確認の場も設けている。	人それぞれ育った環境が違うので、理念である「長年の生活習慣であるこだわり、趣味、身だしなみ等、その人らしい生活が送れる」ように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけている。花の季節になると、毎日のように公園にいき近隣住民とのふれあいがある。また、地域の行事に参加したり地域の一員として交流ができる場を作っている。	町内会に加入し、年一回の総会、溝掃除、クリーン作戦に参加し、利用者と一緒に回覧板を届けている。恒例の行事となっている夏祭りには50件近い案内を行い、毎年近所の小学生が参加してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩しお話を交したりすることで、その方のことを理解していただき、気軽に声もかけてくださっている。運営推進会議の時には認知症の方の理解もして頂くべき勉強の場も作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の報告を行うと共に皆さんから御意見、御要望を伺い、法人とも話し改善に努めている。また、評価結果について内容を報告し御意見を頂き、よりよいサービスが行えるように活かしている。	利用者の状況を報告し、参加者からの質問を受け、事業所内の様子を伝える事でより一層の理解を深めている。感染症やアルツハイマー型認知症等について、最新の情報を発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターの職員さんに必ず参加して頂き、取り組みなど報告している。また、分からないことがあったり問題的なことがあれば相談をしている。	開設当初から疑問点は何でも相談し、協力関係は出来ている。運営推進会議に包括センターの職員が参加し、他事業所の状況や家族の調整等について色々な事例を説明してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時に事業所の基本的考えを伝え、御家族に伝えている。スタッフ間でも定期的に話し合いを行い、正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠は行わず、利用者はいつでも好きな時に自由に行き来が出来る。入所時不穏で室内を歩き回っている利用者に対しては、怪我を負わないように付かず離れず寄り添い、時間をかけて利用者の不安を取り除いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止についての会議を行い自分たちの行為について問題はないか、事業所内で意見交換の場をつくり、話し合う機会を持ち再発防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所、成年後見制度活用している方はいませんが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち理解を深めそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、丁寧に説明を行い、質問があれば、丁寧に対応している。改定があれば、御家族、利用者さんには文章で詳しく説明を行い、納得の上同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や希望があればスタッフ間で共有し、対応が早期にできるのであればすぐに対応できるように取り組んでいる。また、家族会などで報告したり、要望も伺い運営に反映できるように取り組んでいる。	毎月業務日誌から抜粋した利用者の状況を記載した報告書を家族に送付している。何か意見や質問があれば気軽に声をかけて欲しいと伝え、家族からはいつも楽しみにしていると言われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑の全体ミーティングでは、職員の意見、要望を聞き法人全体の会議時に代表者に提案している。また、日々の業務など、スタッフの意見、提案も出来る場面を提供し運営に反映している。	管理者には何でも言いやすく、働きやすい環境だと職員ヒヤリングで聞いた。管理者は穏やかで、職員が困っていることを察知し、さりげなく手助けをしてくれるので、職員からの信頼も厚い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の実績、努力を認め、意欲向上に繋がるよう努めている。また、部外でのコミュニケーションを図る機会をもうけ、職場以外でもリラックスして話ができる場面を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では医療面での研修、認知症の勉強会を行ったりまた、法人内、外の研修も参加できる機会を代表者とも連携し参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業の関係者と情報を共有したり相互の訪問などで交流を行ったり、サービスの質の向上が図れる機会を作り法人全体で研修の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用の相談があれば、事前に面談させて頂いている。また、入居となる段階で要望、希望を伺い御本人が安心して暮らせるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のこれまでの経緯や苦労などを傾聴し、また御家族の要望、困りごと、不安なことに耳を傾けケアに活かせるようにしている。入居までには何度か面談を行い信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や御家族の思い、現在の状況を確認させて頂く中で、信頼関係をきづきながら必要とするサービスの支援を見極め、他の事業所への必要性があればサービス利用も含め対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切にしている。一緒に取り組めることがあれば共に行ったり、御利用者同士が寛げる場を提供し、お互いを尊重し共に支え合う関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、家族とゆっくり過せる時間を提供している。日頃の様子をお話し情報の共有を図っている。毎月文章で家族に、月報告も行って、家族との信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてきたお友達や、近所の方がいつでも訪問できる場を作り関係が途絶えることなく行なえるように支援している。また、ご家族との時間も大切に頂けるよう環境に努めている。	元教え子・近所の方・孫・ひ孫等訪問が絶えない。調査日には、飼い犬が家族と一緒に遊びに来ており、利用者の喜ぶ顔が見れた。毎日近所を散歩する利用者は、井戸端会議で仕入れた情報を事務所に報告してくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が安心して関われる場面をスタッフが一緒に作り、距離感のある利用者さんとの関係も仲介し、孤独感を感じず安心して過せる環境づくりに努め、居心地よく過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退苑後も家族からの相談があれば丁寧にお答えしたり、様子を伺わせてもらったり、いい関係づくりが続けていけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画見直し時や、日頃での会話時に要望などを伺いプランに反映できるように努めている。御本人から確認が出来ない場合は家族からも御本人の思いを代弁して頂いたり会話時に漏れた言葉にも耳を傾けている。	「その人らしい生活が継続できるように支援してゆきます」の理念通り、一人ひとりの思いを傍に寄り添って話を聞いている。食事や散歩中、テレビを見ている時の会話から出た希望を汲み取り、叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報による生活歴やご本人との関係が深かったときの情報からこれまでの人生を大切に継続して生活が行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人ひとりの個々の能力、身体状況に合わせて取り組めることを見極め一緒にやっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の評価、モニタリングをし、御本人の状態、取り組みについてお話している。よりよく暮らすためのケアについてスタッフ、家族、必要な関係機関からご意見、ご要望を伺い反映できるよう作成している	計画した項目に対して毎日チェックをした上、定期的にモニタリングを行い、必要時に計画を立て直している。職員はケアプランに基づいた介護支援を行っている。ケアプランには家族や関係機関の意見も組み入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア内容、計画に基づいた取り組みや結果など個別記録に記入し、職員間で情報の共有が出来るように活かしている。また、次回の計画見直しの検討課題に反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急で受診が必要な時は家族に連絡を行い、その時の家族の状況に合わせて柔軟な支援に努めている。入院時には家族の代行で最後まで付き添い、その時々ニーズに合わせて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板などで情報を共有している。また地域のボランティアの方を招いたり行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院または、かかりつけ医の受診など家族の要望を伺いながら適切な医療を受けられるように支援している。	受診は職員がほとんど付き添っている。認知が激しく家族だけで不安な場合は職員も同行している。受診中は家族と一対一の密な関係を深める機会にもなっている。看護師が週二回訪問してくれており、何かあれば主治医に報告してくれ、主治医より診療の予約を取ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、健康チェックを行い、いつもと違った体調に変化があれば医師に報告し、受診したり訪問看護師にも報告、相談をし、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院に訪問し状態を伺い情報交換を行い早期対応ができるよう努めている。退院時には情報提供書を頂き、今後のケアが安心して行えるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期においては、ご家族や医師、スタッフと話し合いを行って事業所としての対応方針について十分に説明し、共有を図りながらチームで支援していくように取り組んでいる。	看取りを事業所で行う方針だが、終末期には家族・医師・職員等皆で話し合い、最終的に判断している。出来るだけの事はしていくつもりだが、医療行為が必要な場合は、医師の判断で他施設に転居してもらう場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルをいつでも閲覧できるように掲示している。また、対応について看護師の指導の下、職員間で共有し最小限の応急手当ができるように実践力を身につけている。今後もレベルアップに繋げていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害についての対応マニュアルを作成し、定期的に避難・消火訓練を実施し、訓練を行っている。何かあれば地域住民との協力も得られるよう体制を築いている。	年二回業者と共同して避難訓練を実施している。運営推進会議で、災害時の避難場所を再度小学校と確認したが、若干距離がある為、手前の公園を避難場所として検討している。災害時の連絡網には、町内会長・民生委員・地域住民の連絡先が記載され、協力体制が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を大切にその人らしく誇りを持っていきいき自分らしく暮らせるように支援している。また一人ひとりの気持ちを尊重した言葉かけや対応をおこなっている。	前職で地位が高かった利用者から介護の方法についてアドバイスを受けた場合は、「一つ勉強になりました」とお礼を言い、利用者の尊厳を大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で訴えられる思いや気持ちを受け止めている。要望・思いを表されたときなど、ご本人が自分で決定できる場面を提供し、意欲が増すよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの個々のペースに合わせながらも時にはドライブに行きたいとか、希望があれば、一緒に出掛けている。スタッフ側の都合でなく利用者さんを中心にした暮らしが出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪きり、耳掃除も行ったり、身だしなみに気をつけ毎日が快適に過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の雰囲気や環境を整えたりその方の体調に合わせた食事提供をし美味しく、楽しくお食事が出来るように支援している。その方の身体に合わせてできることをして頂いている。	母体施設の栄養士の指導のもと、減塩食・糖尿病食等利用者の症状に合わせた食事を提供している。定期的に血液検査を行い、数値が安定している場合は、利用者の好物を少し多めに提供している。おやつは必ず手作りで、先日のバレンタインでは利用者と一緒にクッキーを焼いて喜ばれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックなどで観察し栄養の確保、水分の確保に努め健康管理を行っている。また、ご本人の健康状態に合わせた味付けや好みに合わせ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はうがいを徹底し清潔が保てるように支援している。入れ歯の消毒なども随時行ない爽やかな口腔状態が保てるよう支援しまた、一人ひとりの能力に合わせたケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態に添って、トイレ誘導を行い能力に合わせた支援を行っている。失敗が出来るだけ軽減できるようにも努めている。	定期的に声かけし、排泄の失敗の減少や感染対策をしている。トイレの中でマッサージをしたり、楽しい話をして腹圧をかけ、残尿がないように心がけ、気持ちよく排泄出来る工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を一緒にしたり、便秘時にはゼリーなど繊維質なおやつや、水分をしっかり促している。毎日排便チェックを細かく記録し個々の状態に合わせて先生の指示の下、緩下剤の調整を行い改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	車椅子でもゆっくり入れる機械浴もある。また回数に捉われずその方の希望に合わせてゆっくり入浴をして頂き、個々のペースに合わせて時間にもゆとりを持って楽しんで入浴ができるよう支援をしている。	基本は週に三回入浴支援をしているが、家族と利用者の希望があれば、週に何度でも入浴をしてもらっている。神経痛の利用者には、手浴や足浴で、少しでも気が紛れる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせてお部屋で休息してもらっている。日中の環境や就寝前の雰囲気などにも配慮し安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の内容、用法を理解し先生の指示のもと支援している。また、新たな薬服用時には症状を確認し体調変化を見逃さないように努めている。変化があれば先生に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが活躍できる場面を提供し笑顔で楽しみながら暮らせるように支援している。また、気分転換にドライブ、喫茶・買い物等ご本人の要望も聞き楽しみのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事には、利用者さんの希望を伺い参加したり、また、季節ごとの旅行で郊外で食事を楽しんでいる。お正月には神社にお参りに出かけられるよう支援している。	外出希望の利用者には、珈琲館やスーパーと一緒に掛けている。開所から十年以上も経過しているため利用者も重度化し、車椅子利用の方が増え、全員一緒に外出は難しいが、個々に近隣の近水園に散歩に行っている。	重度になっても一人ひとりの希望に沿った外出が行えるように検討しているところである。支援の工夫を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの希望で買い物に出かけたり、旅行に出かけた時には、お金を所持し自ら買い物して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛ける事が出来ない方がほとんどであるが、家族から電話があると、お話ができるように支援している。お手紙が届いた時には読めない方には代弁しお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには季節の花鉢を置いたり料理の音や臭い、又スタッフが何時も見守る中で安心して過ごせる空間を作っている。利用者さんの要望に合わせて温度、光にも配慮している。	いつでも外部に電話が出来る様に公衆電話が設置され、窓辺には家族から送られた造花が飾られている。廊下や居間の至る所に椅子を置き、各々が思い思いの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場には、ソファを置き、気の合う仲間と団欒できるようになっている。また、1人になりたい時には別場所でゆっくり自分のペースで過ごせる居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や、使い慣れた家具、又、仏壇、奥さんの遺影を置かれていたり、個々の居室にはご本人が不安なく安心して過ごせるように工夫をしている。	絵画に目覚めた利用者が、居室に道具を一式持込み、空いた時間に絵を描き、完成した絵を娘にプレゼントしている。徘徊する利用者が間違えて入室しないように「〇〇さんの部屋です」と扉に貼り、安心して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには個々の能力が活かせるため、場所の把握が出来るよう工夫している。また、移動が安全に自分の力で歩行ができるようホール内には手すりを設置し全てがバリアフリーになっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105623		
法人名	医療法人ももたろう整形外科医院		
事業所名	ももたろうの郷ひなた苑 B棟		
所在地	岡山市北区足守709		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105623-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105623-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル
訪問調査日	平成27年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな自然環境の下、利用者さんに寄り添うケアを行い、職員もアットホームな雰囲気作りに努め、安心して生活を送って頂けるよう心掛けている。四季折々の行事も取り入れ、施設内でも季節を感じることに喜びのある日々を過ごしてもらえている。毎月、利用者さんの苑での様子をまとめ、お知らせすることにより苑の様子を家族に知ってもらい、家族と利用者さんのかけ橋になり、より良い関係作りに努め、また、家族にも好評を頂いている。医療面においては、母体施設が医療法人(整形外科)なので、他の病院との連携、サポートも充実している。地域に開かれた施設作りの為、町内会議や地域清掃に参加したり、回覧板などでお互いの情報を共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念が共有できるよう見える所に貼って職員全員への周知を図っている。また、職員間で定期的に話し合いの場を設け再確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や近所への買い物に出掛け利用者さんが地域社会から疎遠にならないよう、ふれあいの機会を設け、また地域の行事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場において認知症についての理解や支援について説明をしているが地域の人々に向けては確立していない面もあり、今後、要望があれば認知症に関する勉強会を行えればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場を設け事業所の報告を行うと共に皆さんからの要望や御意見を伺い、改善に努めている。また、評価結果について報告し、今後のサービス向上に繋げるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡は取っているが、運営推進会議への出席が難しく、市町村としては包括支援センター職員さんに一任している。運営上の問題がおきた場合は市町村担当者に相談、指示を仰ぎ利用者に必要な情報を得ていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入所時に事業所の基本的考えを伝え、ご家族に理解を求めると共に、身体拘束マニュアルを元に職員への周知を徹底し、身体拘束をしないよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で考え共有できるようにする為、定期的に会議を行い、虐待に関する知識や理解を深めている。何が虐待かを見分け、日々のケアで気づいた点、具体例を用いて話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見のケースはないが研修があれば、研修に参加し制度の理解と必要性について職員が皆で学ぶ機会を積極的に持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明し同意を得ている。質問や疑問などあれば、十分納得して頂けるようにその都度説明を行って、安心してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人や家族より希望や要望があれば職員間で共有し要望等を反映できるように、話やすい雰囲気作りをし、訪問時や家族会などでも意見を言いやすいような対応を心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じて職員の意見や要望を聞いて、その都度話し合いを行っている。大きい問題があれば代表者に相談し、指示を仰いでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い個人の能力の開発や意欲の向上につながるよう努めている。また、職員のストレスや疲労軽減の為、休憩室で休憩を取り気分転換の時間を取るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会の資料を作成し介護技術向上を図ると共に皆で取り組めるよう努めている。外部研修などがあれば、能力に応じ、研修に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の全体会議等により、他部署の職員との交流や情報を共有ができています。他部署の意見や現状を知ることで、サービス向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、事前面談させて頂き生活状態の把握や御本人にお会いし本人の心身状態や御意見・思いをくみ取り職員が本人に安心感を持って頂けるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が悩まれている事などに真摯に耳を傾け、不安が軽減されるように要望を聞き入れて、安心して生活できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族の意向を良く聞き、場合によって他の事業所なども視野にいれて幅広く対応し、話し合いができるように信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての尊厳を大切にし、日常の中で本人が無理のない程度の仕事(洗濯たみ等)をお願いすることにより必要とされていることを感じてもらい、楽しく日々の生活が送れるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の報告書に本人の様子、生活の変化等報告すると共に、季節のイベントへの参加も含め、ご家族の訪問時にはゆっくりと一緒に過ごしていただき良好な関係を築いていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を尊重し、希望があれば馴染みの方との連絡をとれるよう配慮し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの関係が友好になるように、職員が仲介し問題が発生した場合は互いが納得できるよう十分話を傾聴して解決に努め、安心して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合でも家族の了解の下、身体状況や精神状況の情報提供はもちろん、利用者の趣味や生活についても情報提供し新しい環境に早く慣れるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意見を聞いて職員間で共有し、意見を把握するよう努め、ご家族からも情報を得て安心した暮らしが出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族に許可を得ながら生活歴やご本人との関係のある方からの情報を頂き、これまで過ごされてきた人生を理解し御本人の特徴を活かしたサービス提供に繋げていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行うと共に残存能力の発見に努め、利用者さんが生き生きと笑顔で取り組めるように心掛け、さりげなく支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で利用者さんの思いや要望を伺いながら状態に合わせ、御家族の要望も取り入れ現状を伝え職員皆でカンファレンスを行っている。個別に職員担当を決めモニタリングを実施しケアに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を時間ごとに細かく記録することで、職員間で情報を共有すると共に、今後の介護計画に反映できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急受診等の際は、家族に連絡を行い、その時の家族の状況に合わせ柔軟な対応を心掛けている。入院時など家族の代行をする等ニーズに合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の町内会に属し、回覧板等で情報を共有している。また、行事の時にはボランティアの方をお招きして交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設の医師や協力病院、かかりつけ医との連携を図り安心して医療が受けられるように支援していく体制を作っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の状態の変化を把握記録し、必要に応じて医師や訪問看護師に相談したり受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は定期的に訪問し情報の収集に努め、退院時にもしっかり情報交換を行い、今後、安心して生活していただけるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期においては御家族に対し医師と職員と十分話し合いを行い事業所としての対応や方針について納得の行く説明をし共有を図り連携して支援をしていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル(応急処置等)をいつでも閲覧、対処できるようにしている。定期的に医師や看護師と連絡をとり必要時には医師や看護師と連携を図れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成し、年2回の消火訓練と避難訓練を行い、円滑な誘導が出来るよう訓練を行い、運営推進会議で地域の方に内容の報告を行い、何かあれば協力を得られるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格を良く知ることにより、尊厳を傷つけないような対応をし、声掛けや支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を良く聞くことを大事にし、答えや希望の選択肢を広げる手助けを行いつつ、最後は自分で答えを導けるように声掛けをしている。意思疎通の難しい方も表情等をくみ取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動、散歩、ドライブ等利用者が出来る範囲で気持ち良く参加してもらい、気持ちがのらない場合は無理強いせず、ペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望がある時は、指定の床屋を利用し対応している。利用者さんが好きな服を選んでもらうことにより、その人らしい着こなしを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者さんの状態に応じて提供している。負担にならない後片付けは、自主的に手伝って下さる方もいるので職員と共に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理の下、献立が作成されている。利用者さんの健康状態に応じ、食事形態を検討した上で提供している。また、毎日の食事量をチェックし食事が摂れているか把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをして頂く中で、本人の力量に合わせ必要によっては職員が付き添ったり介助で行っている。また、口腔ケアを拒否される利用者さんに対しては時間をおき落ち着いた所で再び声掛けを行い清潔を保てるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自立をできる限り支援し、トイレでの排泄が出来るように誘導をしている。また、ご本人の排泄パターンの把握を努めることにより、声掛けし自立支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、水分補給や運動を促し予防に努めている。また、必要である場合は医師に相談の上、指示の下、内服薬を服用し便秘の改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良や気分が優れない時などは、別の日に入れるよう声掛けし、ご本人のペースを大事にしている。また、ゆっくり時間をとることによって入浴を楽しんで頂ける環境作りにも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その方に合った休息を取り入れるようにしている。周りの環境にも配慮し不安を感じさせないよう安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の記載されたリストをファイルに閉じて職員がいつでも確認、把握できるようにしている。また、飲み忘れのないよう職員間でも声掛けなど徹底し体調の変化があれば医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ等で苑外にでることで気分転換を図り、楽しい気分を感じてもらえるよう努めている。個人の趣味等を活かしてもらえる時間を作り、楽しんで生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さんの希望を聞き、散歩に出掛けたり、中庭で日光浴をする等している。また季節ごとに旅行に出掛け、外食をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑で管理しているお金に関しては帳簿を付け毎月、家族に送付している。また、利用者さんの希望に応じ、お金を所持したり買い物して使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や身近な人との関係をつなぐ手段として電話や手紙などのやり取りが出来るよう支援している。また、プライバシーの観点からも配慮し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は季節感を意識した貼り絵や写真等を掲示し、気持ちよく過ごせる空間作りを心掛けている。またスタッフが常時見守り、安心して生活できるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のおける仲間と共有できる場所や一人で過ごせる事を好む方の場所を作り安心して過ごせるようにしている。ソファや食卓の椅子の配置など個人個人が好む場所で、ゆったり過ごして頂けるよう工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、自分が製作した物の掲示など、家族の協力の下に設置し、利用者さんが安心して居心地良く過ごせる居室が作れるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室など生活に関わる部分には、わかりやすく目印をつけて場所が把握できるよう配慮し職員も声掛けし自立支援している。		